

桜川市人口ビジョン

2016 年 3 月

桜川市

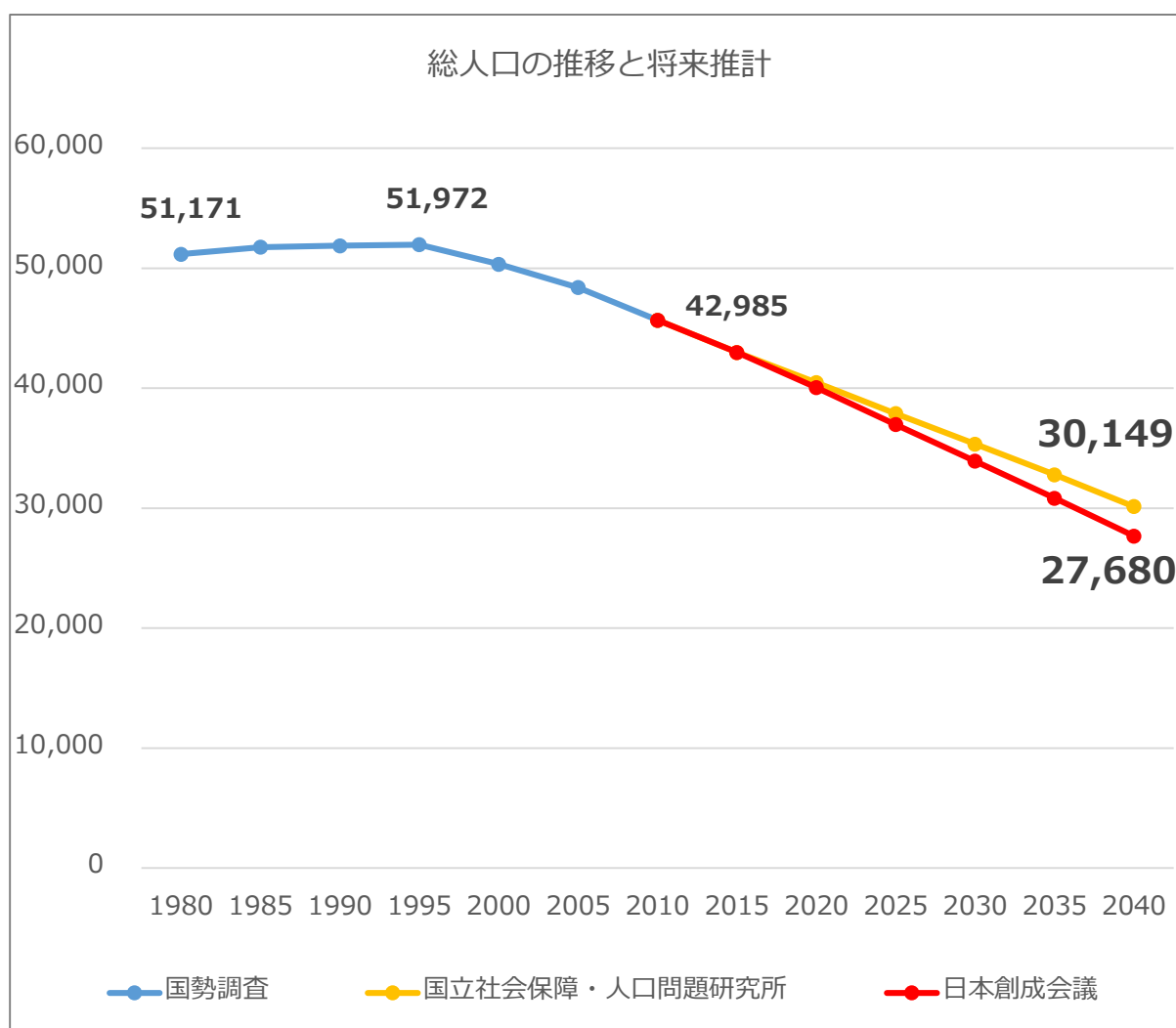
1.桜川市人口ビジョンの位置付け

当ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案し、本市における人口の分析を行い、将来展望を示すもので、当市の地域創生総合戦略立案の基礎とします。

2.人口動向分析

○ 総人口の推移と人口推計

当市の2040年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」によれば、30,149人になると推計されています。また、2014年5月に日本創成会議が発表した将来推計人口では、人口移動が収束しない場合、27,680人まで減少し、特に、若年女性（20～39歳）人口は、2010年の4,543人から、1,805人まで減少（変化率▲60.3%）すると推計されています。

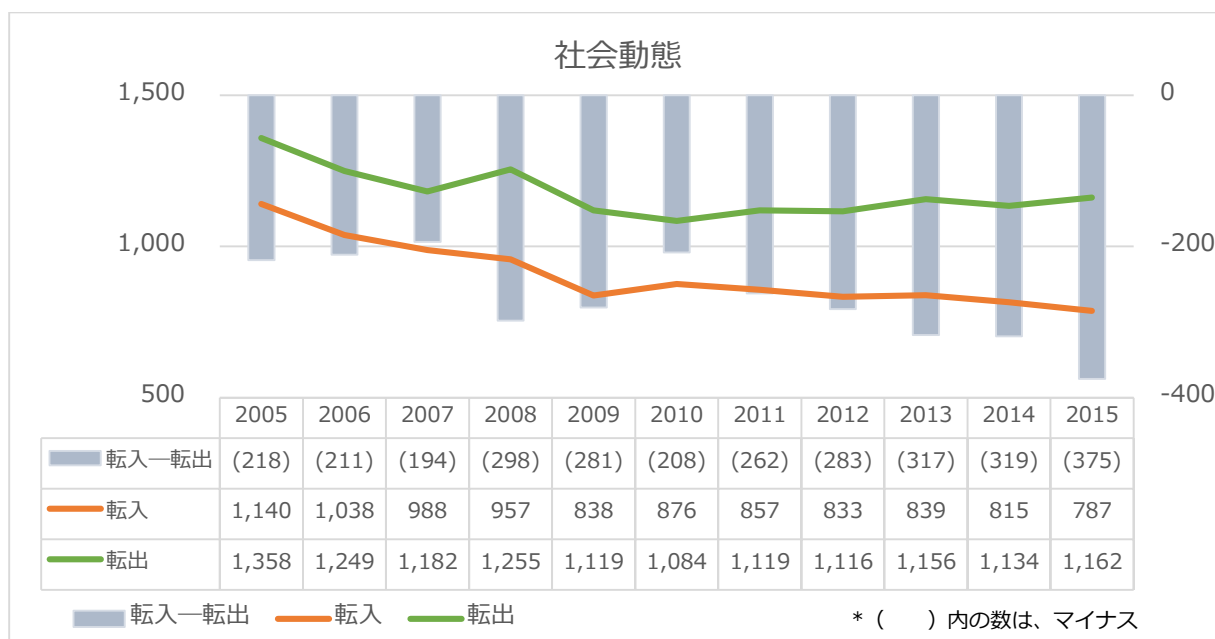


※2010年までは国勢調査人口、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値を記載

○ 社会動態

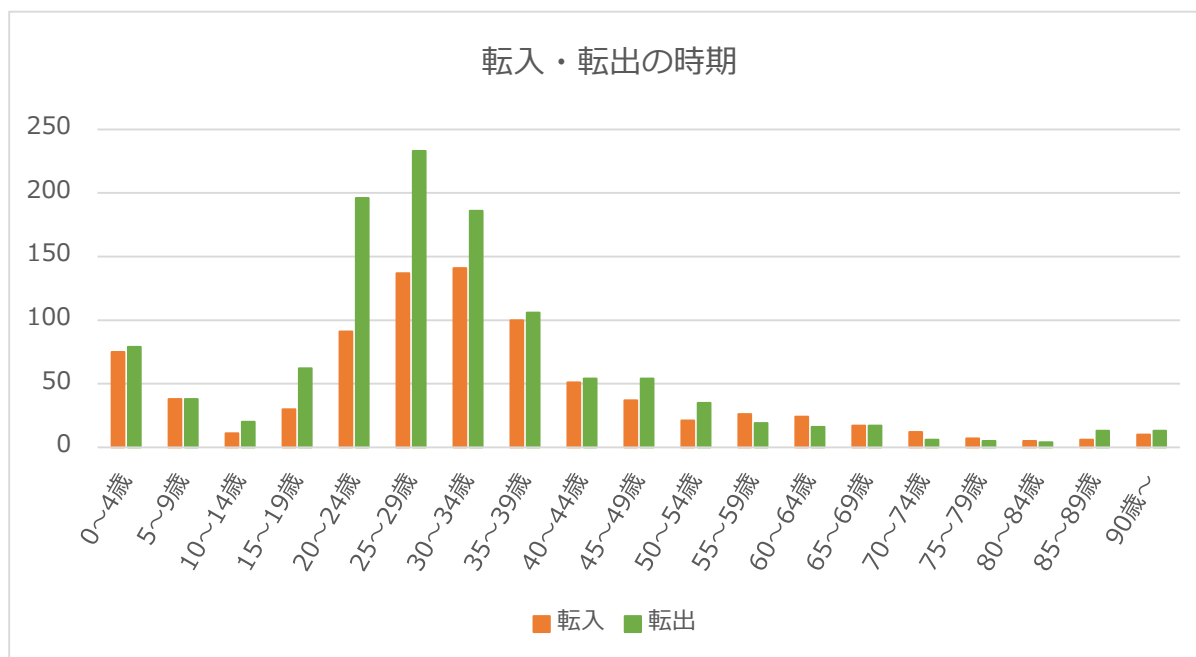
近年、転出数は横ばい傾向ですが、転入数は年々減少しており、2015 年の転入者数は 787 人であり 2005 年対比で 31%減少しています。直近 5 か年の転入と転出の差は、平均で約 310 人であり、社会減が続いている状況です。

■ 転入・転出の推移



※常住人口調査より作成

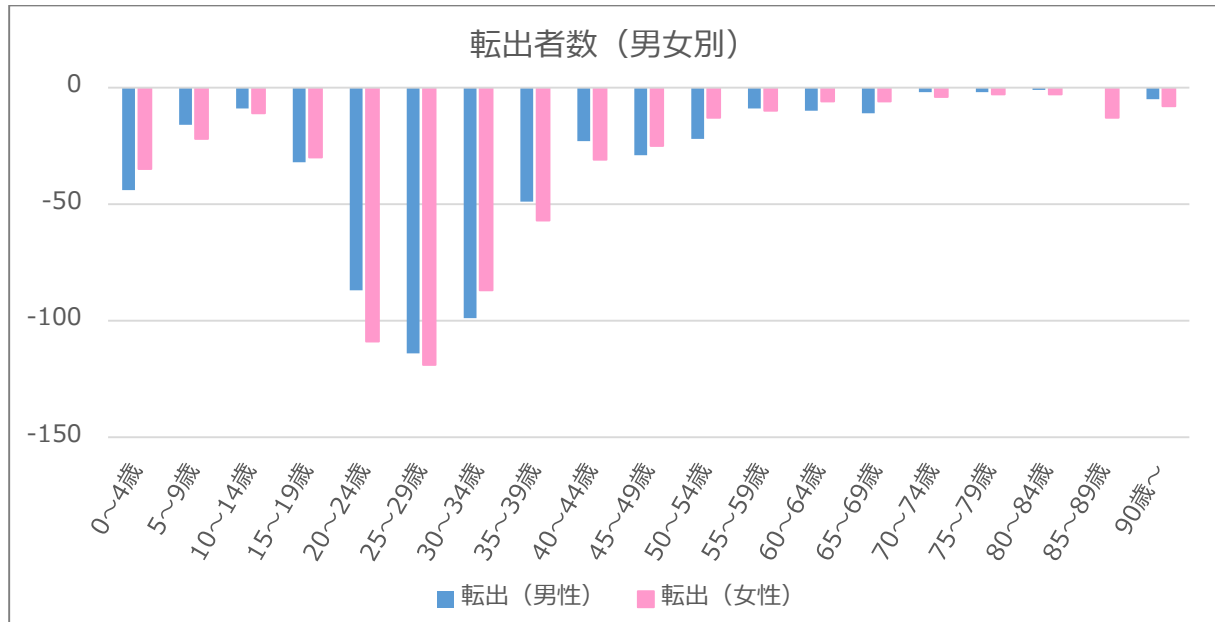
■ 年齢階級別転入・転出状況



※常住人口調査（基準日 2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日）より作成

■年齢階級別転出状況（男女別）

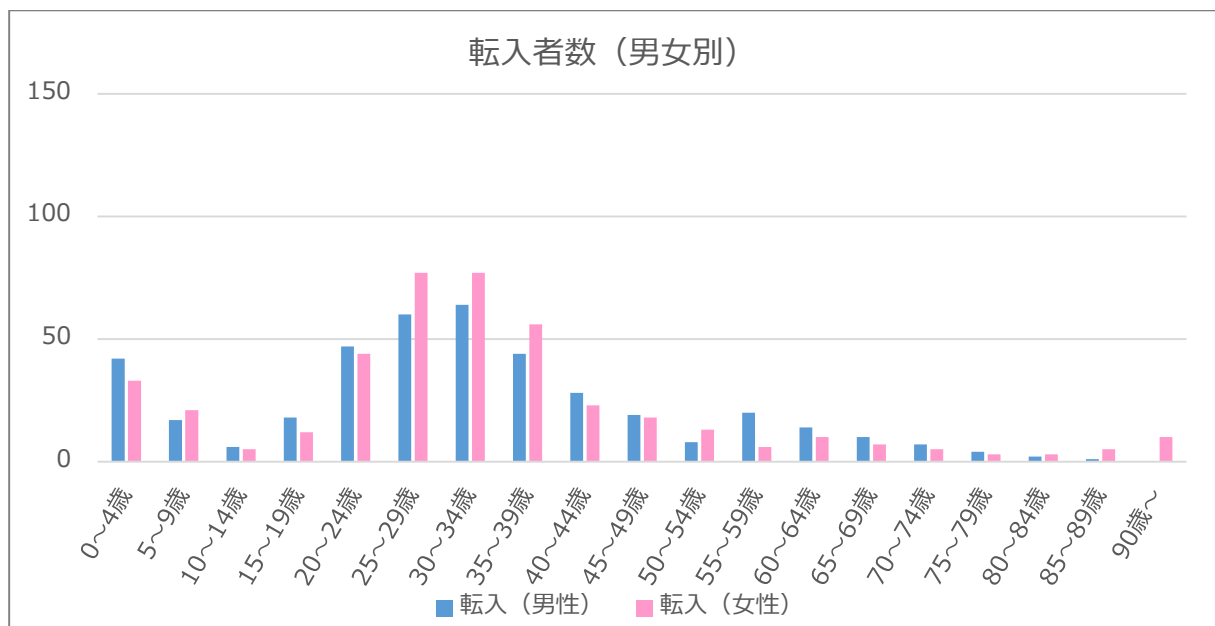
20 歳代から 30 歳代前半の女性の転出が目立ち、一般的に結婚や出産などが多い年齢層であることを考えると、この年齢層の転出が本市の出生数の減少につながっていると考えられます。



※常住人口調査（基準日 2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日）より作成

■年齢階級別転入状況（男女別）

20 歳代後半から 30 歳代の女性の転入が目立ちますが、転出数と比べると人数が少ない状況です。



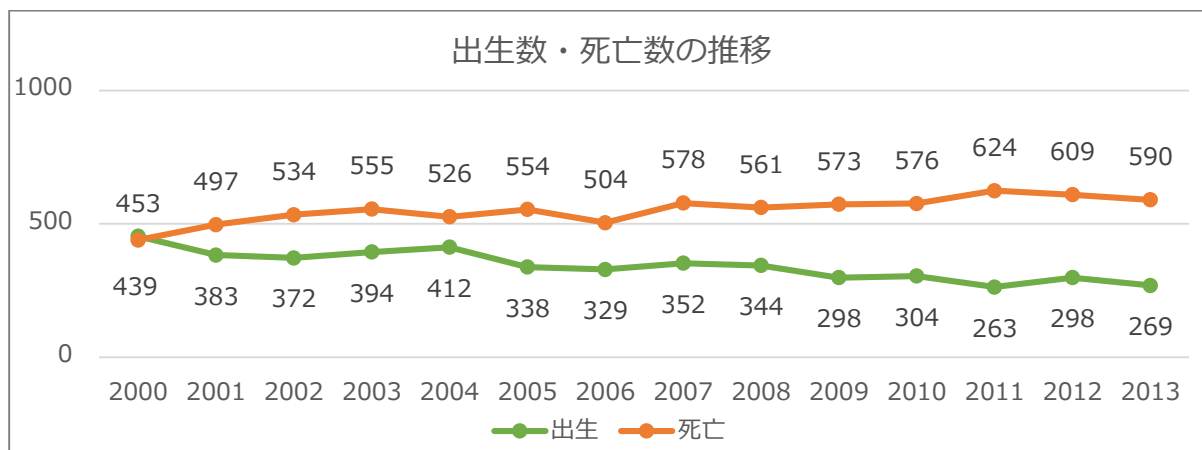
※常住人口調査（基準日 2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日）より作成

○ 自然動態

■ 出生数・死亡数の推移

出生数は年々減少しており、2013 年は 269 人であり、2000 年対比で 38.7%減少しています。一方、死亡数は増加傾向にありましたが、近年は横ばいとなっています。

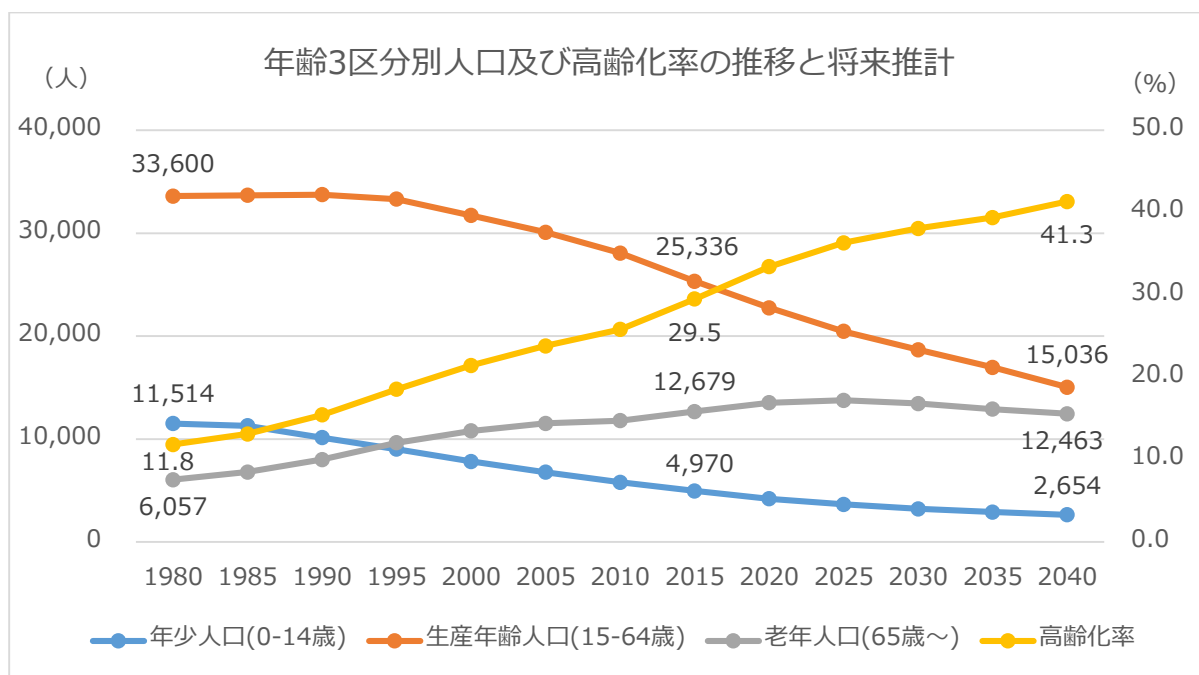
直近 5 か年の出生数と死亡数の差は平均で約 300 人となり、自然減が続いている状況です。



※常住人口調査より作成

○ 年齢 3 区分別人口の推移と推計

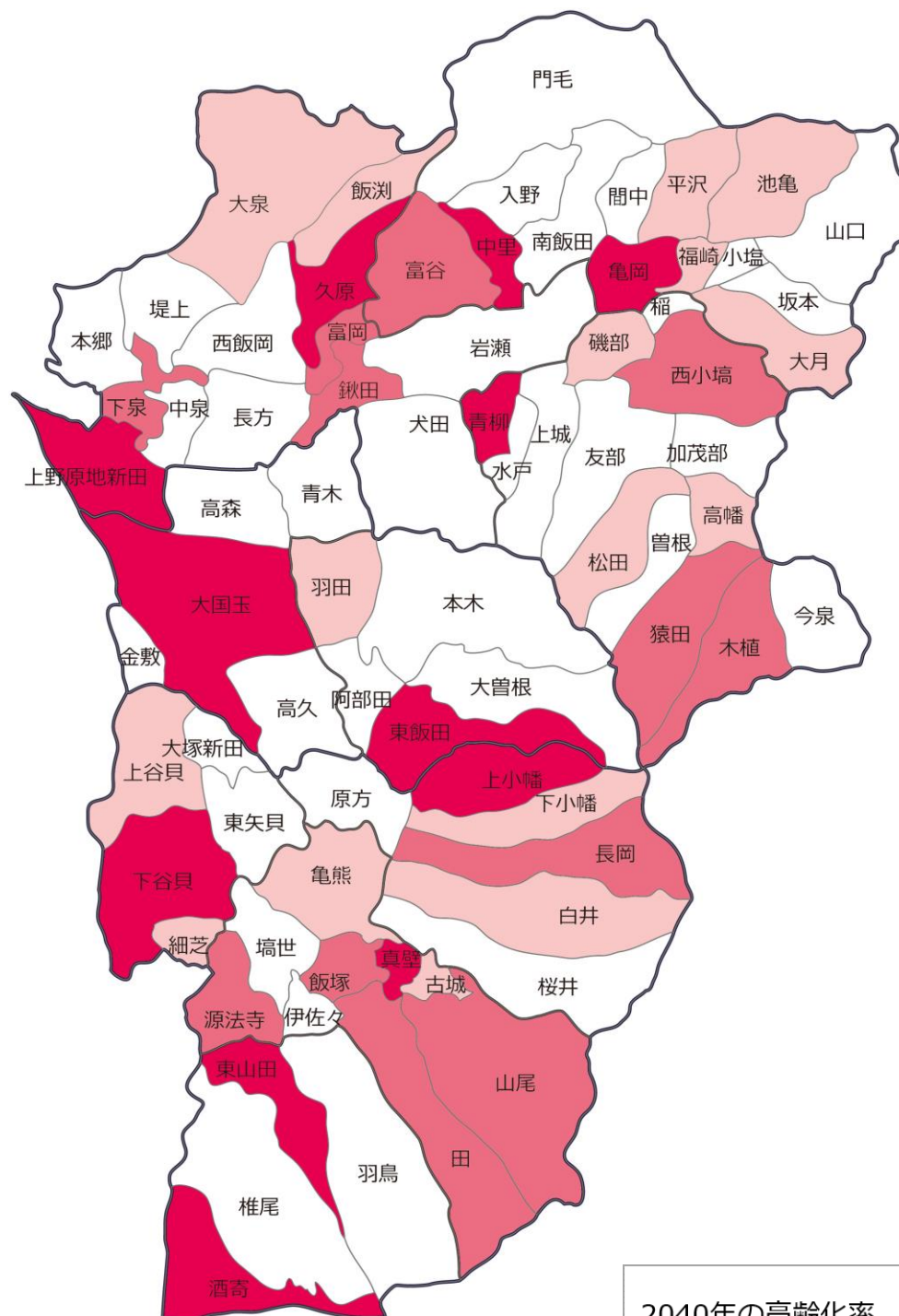
年少人口が 1980 年以降、生産年齢人口が 1990 年以降減少し続けています。老年人口はこれまで増加し続けてしてきましたが、2025 年以降は減少に転じるとされています。



※2010 年までは国勢調査人口、2015 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値を記載

○ 大字別の高齢化率推計（2015 年→2040 年）

大字ごとの高齢化率の推計を行ったところ、2040 年の高齢化率が 50%を超える大字が 12 地区、45%を超える大字が 12 地区、桜川市の平均（41.3%）を超える大字が 16 地区となりました。（桜川市の大字の数：76）



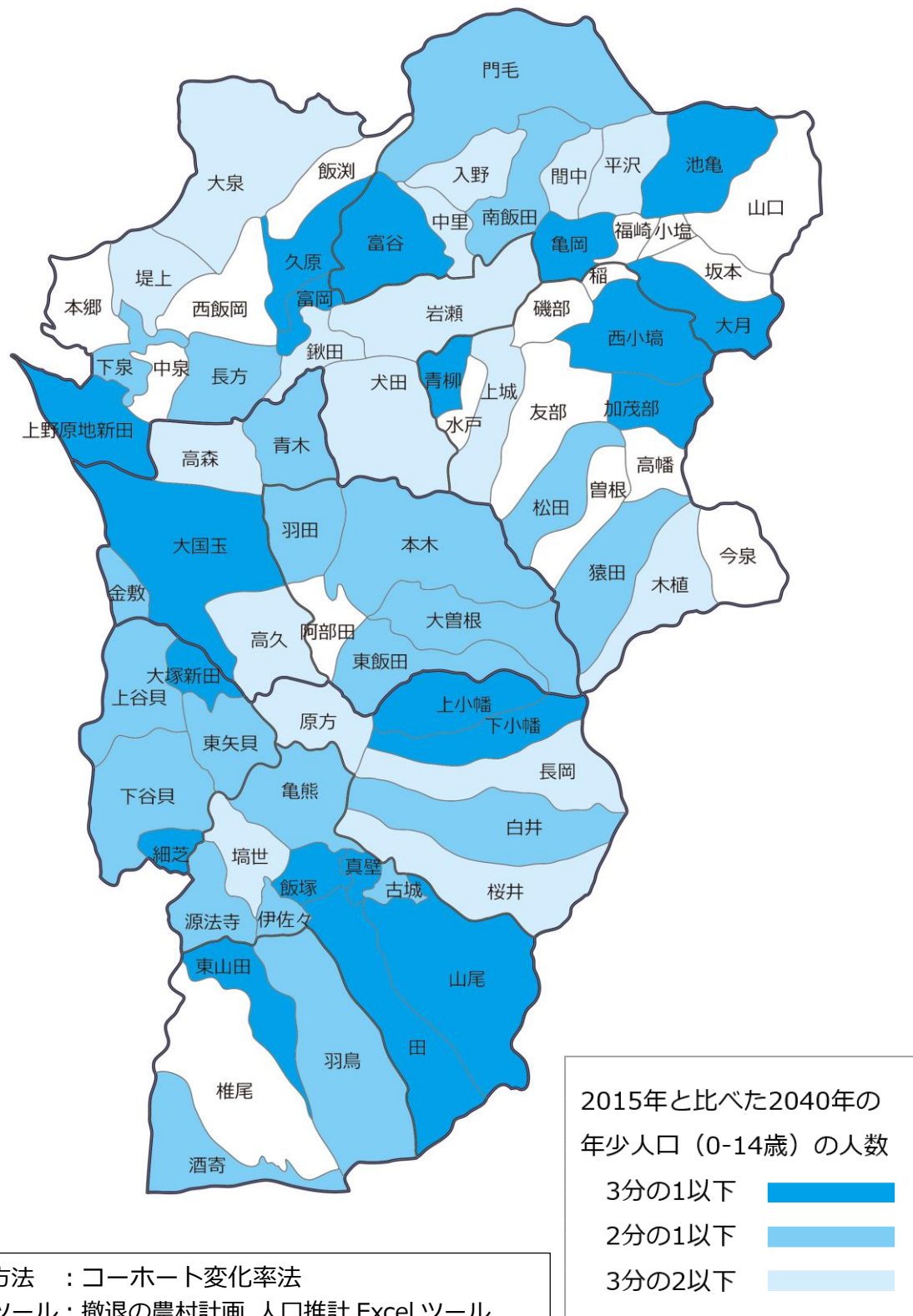
2040年の高齢化率

50.0%以上	
45.0%以上	
41.3%以上	

推計方法：コーホート変化率法
 使用ツール：撤退の農村計画 人口推計 Excel ツール
 使用データ：1995・2000・2005・2010 国勢調査

○ 大字別の年少人口推計（2015 年→2040 年）

大字ごとの年少人口（0～14 歳）の人数を推計したところ、2040 年に 2015 年の人数と比べて、子どもの数が 3 分の 2 以下になる大字が 17 地区、2 分の 1 以下になる大字が 21 地区、3 分の 1 以下になる大字が 20 地区となりました。（桜川市の大字の数：76）



3.人口の将来展望

○ 総合戦略の展開による移住定住促進

1. 地元の魅力で稼ぐ農業づくり推進プロジェクト

(内容及び効果の発現)

- ・農業の成長産業化、担い手の育成、新たな農地の守り人づくりによる移住定住

2017年～ 5人/年 2020年～ 10人/年 2035年以降 20人/年

2. さくらがわ地域 DMO 形成プロジェクト

(内容及び効果の発現)

- ・ヤマザクラを核とした交流人口の増加、観光産業活性化による移住定住

2020年～ 5人/年 2030年～ 10人/年 2035年以降 20人/年

3. さくらがわ生涯活躍のまちプロジェクト

(内容及び効果の発現)

- ・大和駅北地区への病院等の整備による移住定住

2019年頃～ 50人/年 2025年～ 50人/年 2030年以降 75人/年

4. 持続可能な暮らしづくり・小さな拠点形成プロジェクト

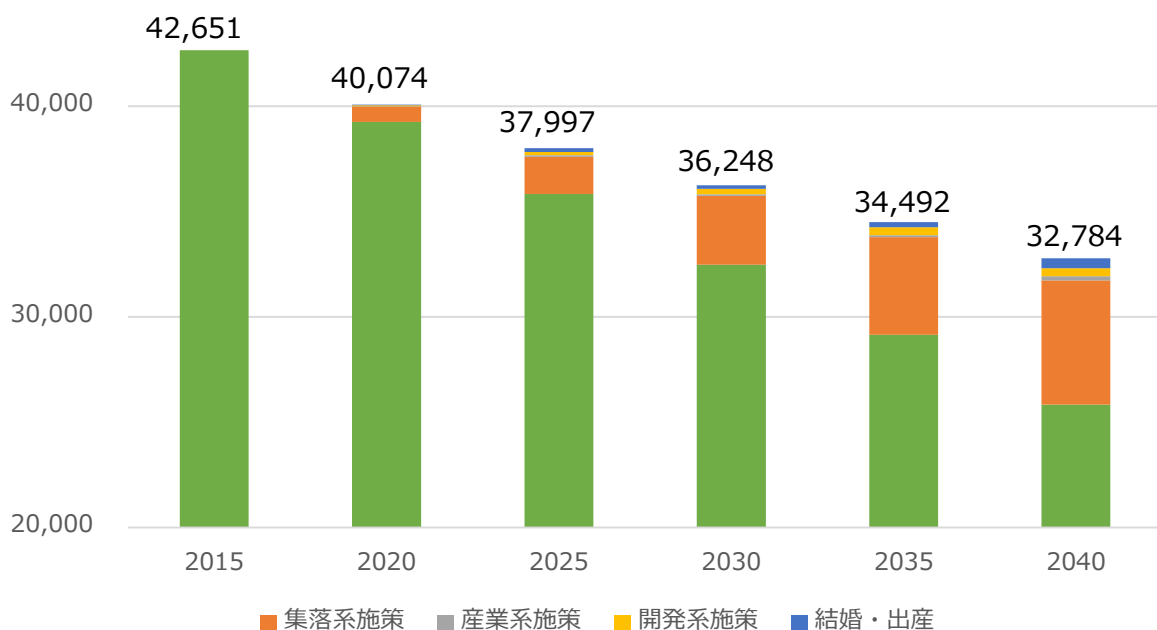
(内容及び効果の発現)

- ・集落ごとのU I ターン運動の展開による移住定住

2017年頃～ 20組/年 2021年頃～ 40組/年 2025年頃～ 76組/年

○ 総合戦略の展開による効果を加えた人口推計

総合戦略の展開による効果を加えた人口推計



○ 長期人口ビジョン

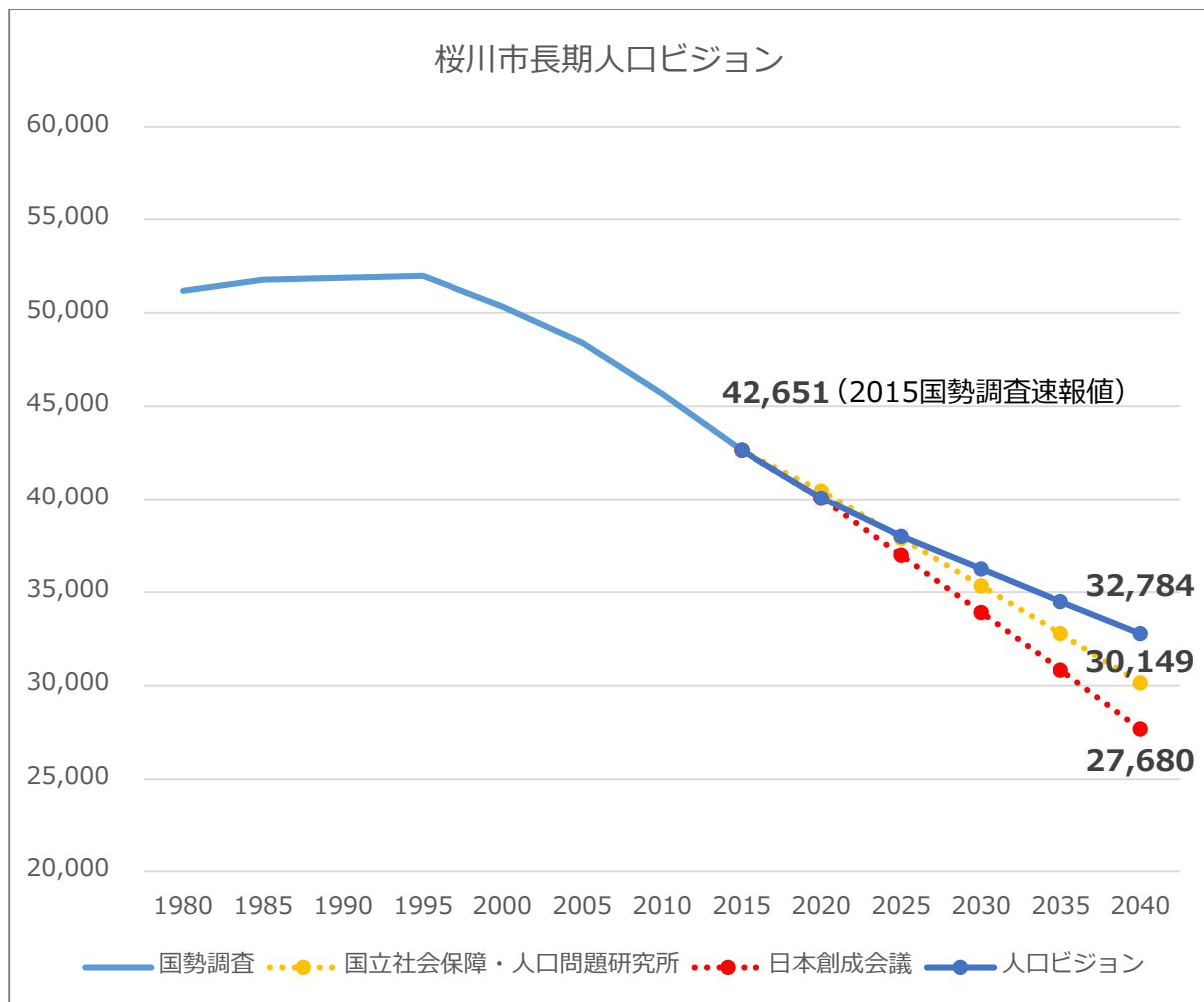
桜川市の人口減少の要因は、20代・30代の若年層の転出超過による社会減と出生数の減少による自然減の双方にあります。

このため、転出を抑制し転入者の増加を促すと共に出生数の増加に積極的に取り組むことが必要です。

転出者を減らし、転入者を増やすため、桜川市のらしさや魅力に合致した続けられるしごとを創り、20代・30代の若年層の移住・定住を重点的に進めるとともに、結婚・出産・子育て支援を強化することで出生数の増加を目指します。

こうした施策を組織横断的に取り組むことにより、2025年ごろには生産年齢人口が増加傾向に転じ、それに伴い年少人口も増えることで、2040年に約33,000人の人口が維持できることを目指します。

2040年の目標人口：約33,000人



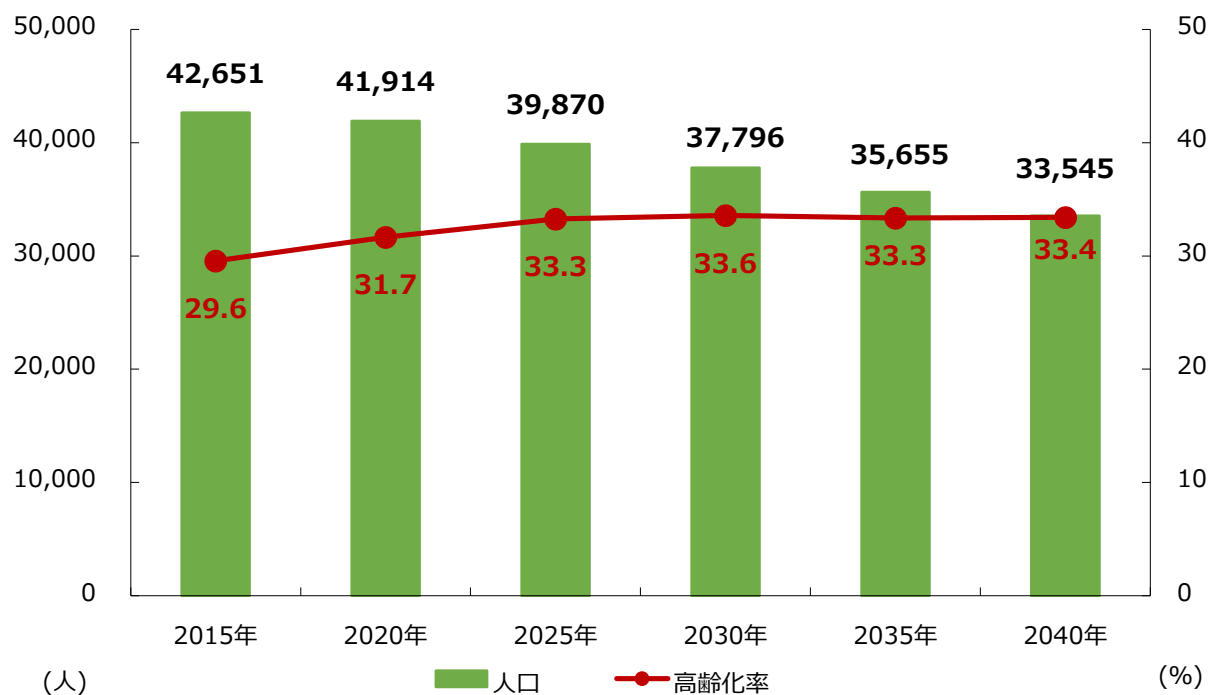
【参考 1】

2015 年国勢調査速報値を活用した人口推計

○2015 年国勢調査速報値を活用した人口推計

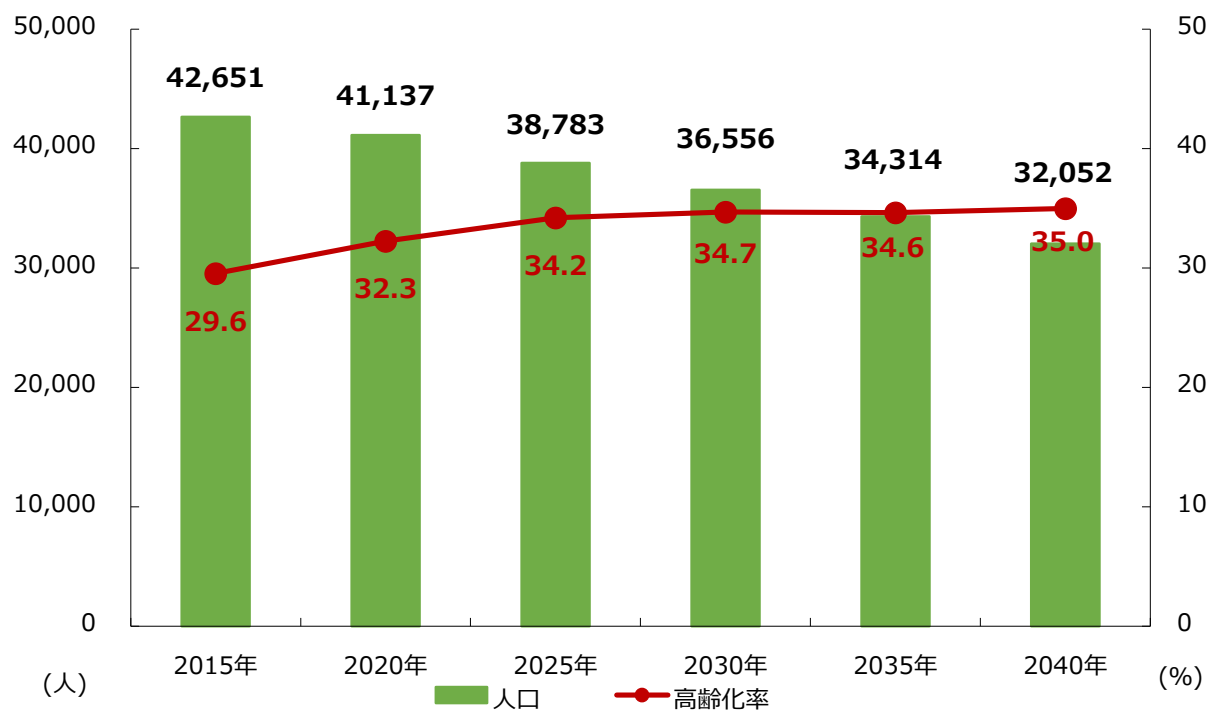
シミュレーション 1

条件：毎年 76 組、30 歳代前半の夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターンした場合



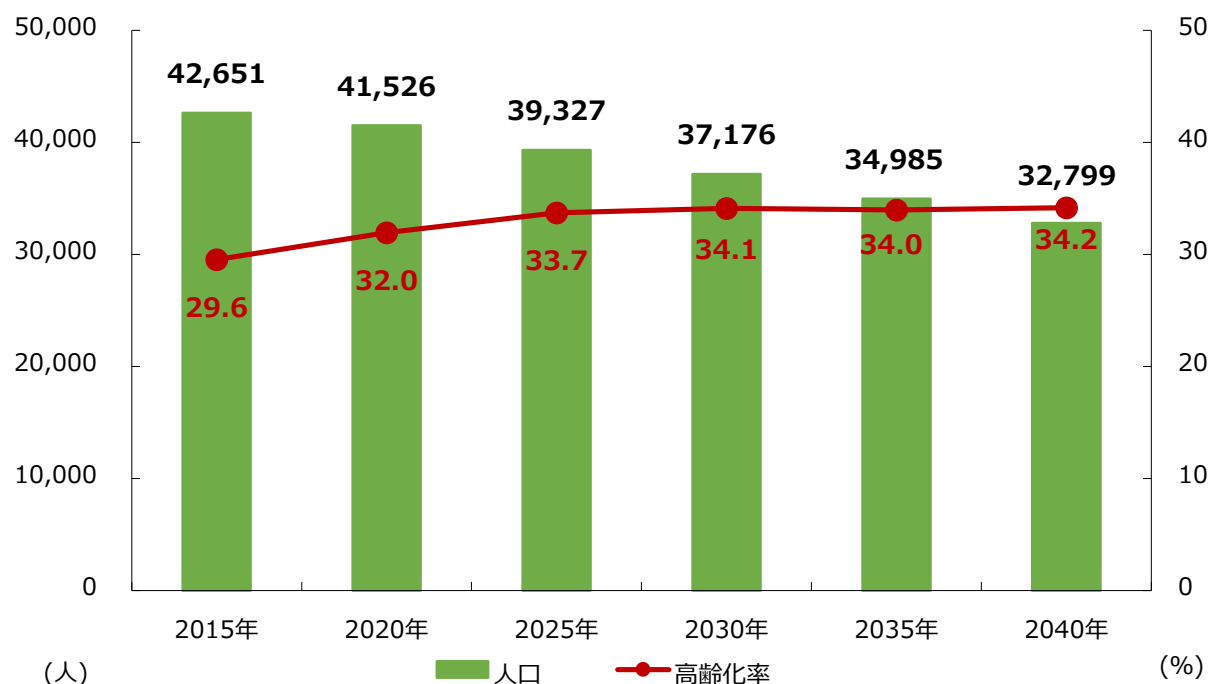
シミュレーション 2

条件：毎年 76 組、20 代前半夫婦が U・I ターン



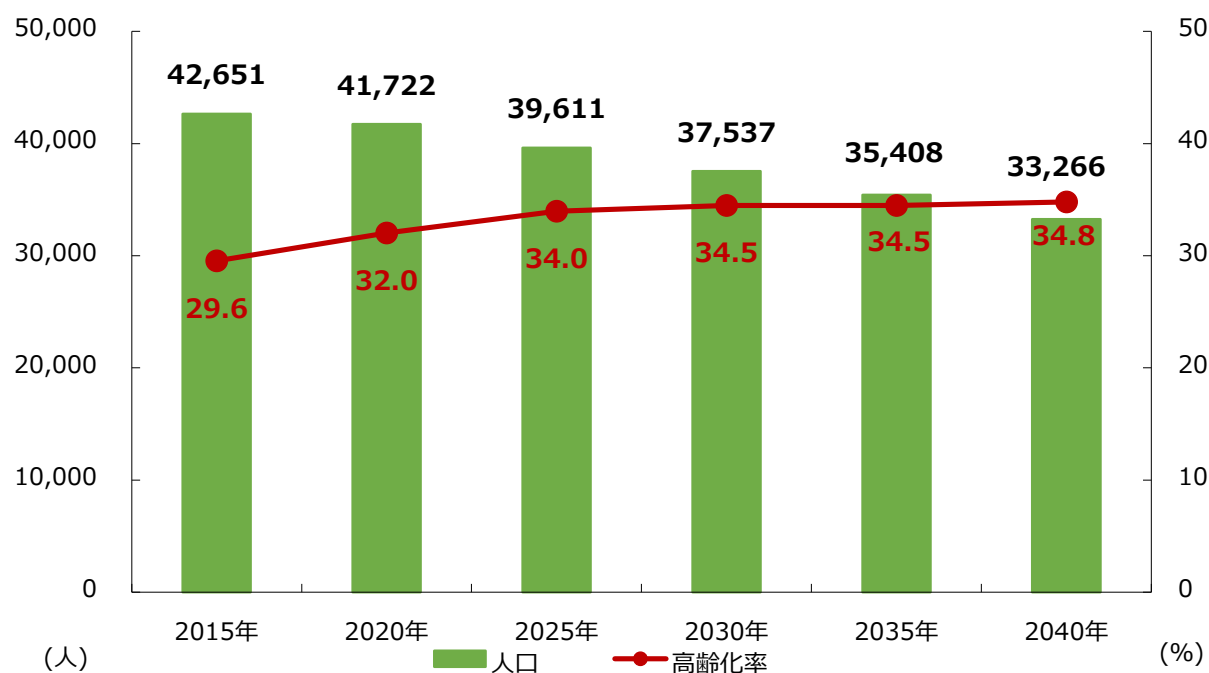
シミュレーション 3

条件：毎年 38 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン
かつ、毎年 38 組、20 代前半夫婦が U・I ターン



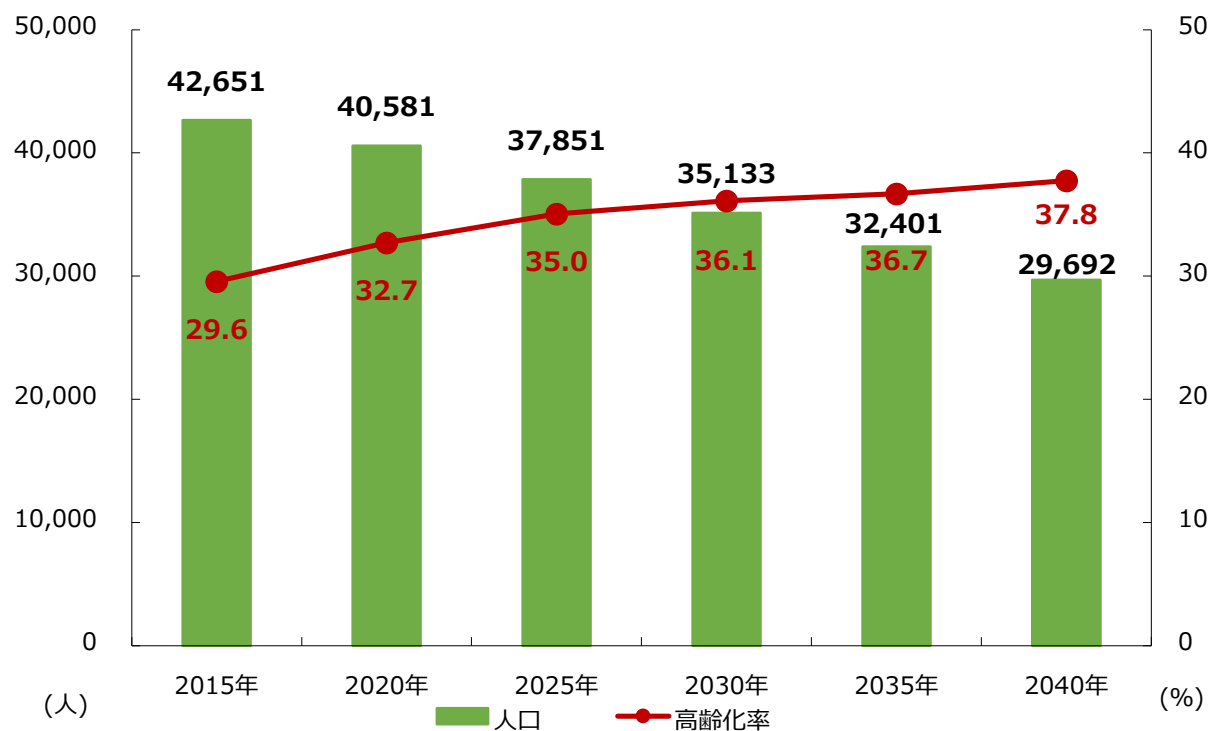
シミュレーション 4

条件：毎年 38 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン
かつ、毎年 38 組、20 代前半夫婦が U・I ターン
かつ、毎年 10 組、60 代前半夫婦（定年退職者）が U・I ターン



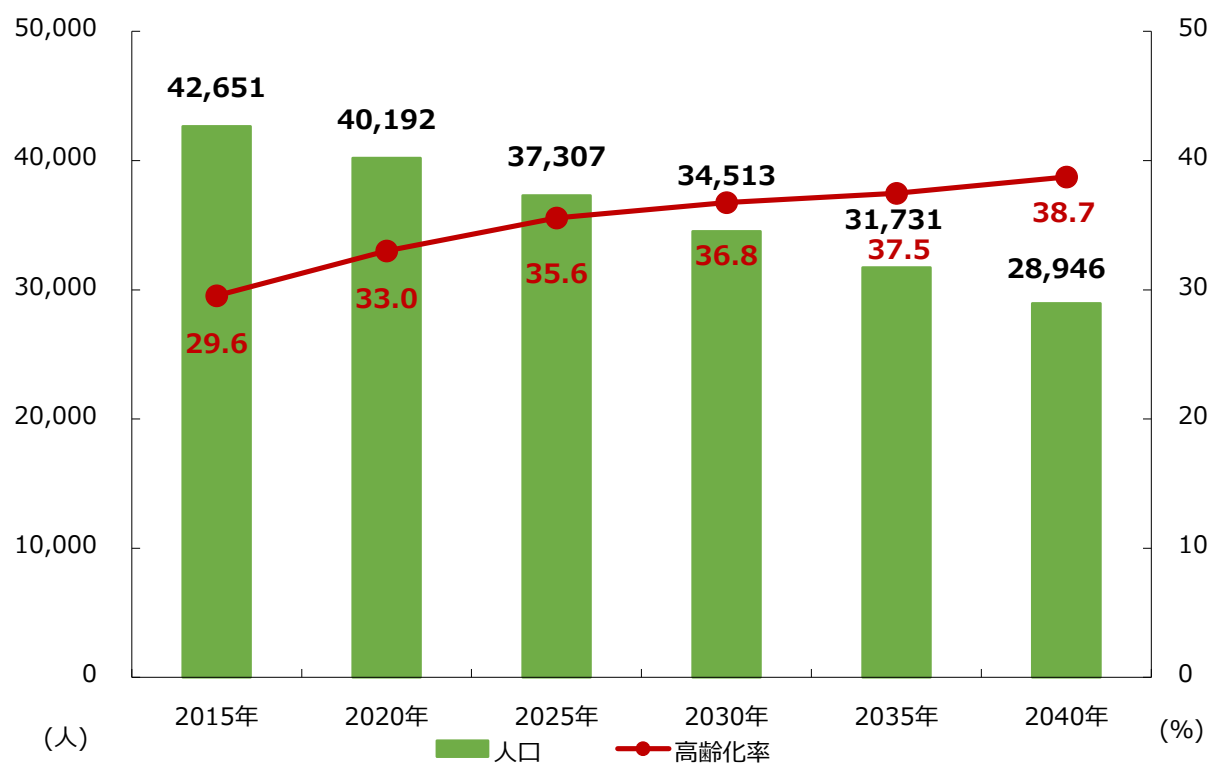
シミュレーション 5

条件：毎年 38 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン



シミュレーション 6

条件：毎年 38 組、20 代前半夫婦が U・I ターン



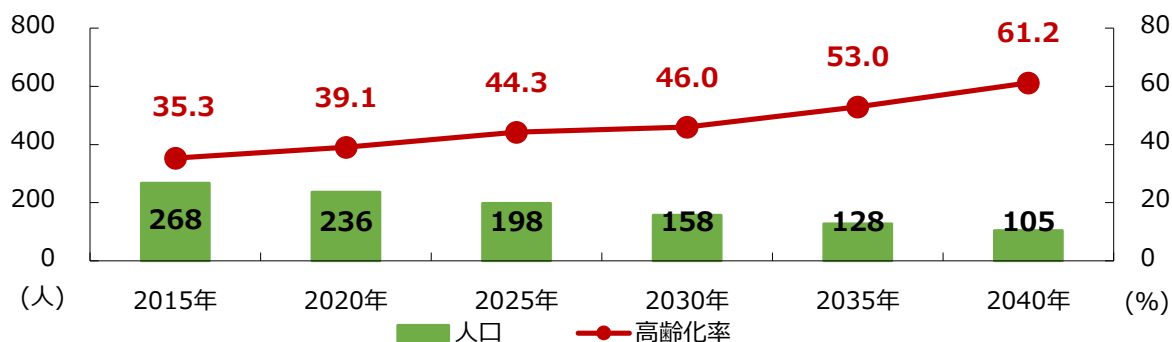
【参考2】

モデル地区推計

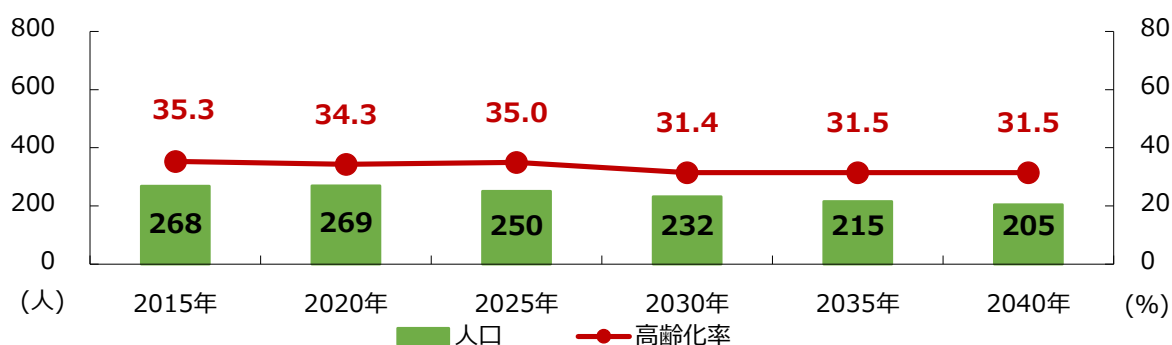
※推計方法 : コーホート変化率法
※使用データ : 2005、2010 国勢調査

モデル地区推計（青柳地区）

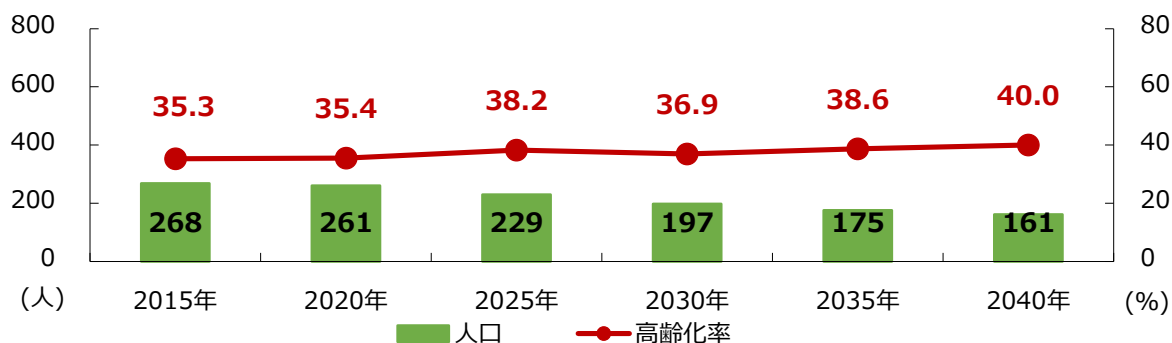
● 現行のまま



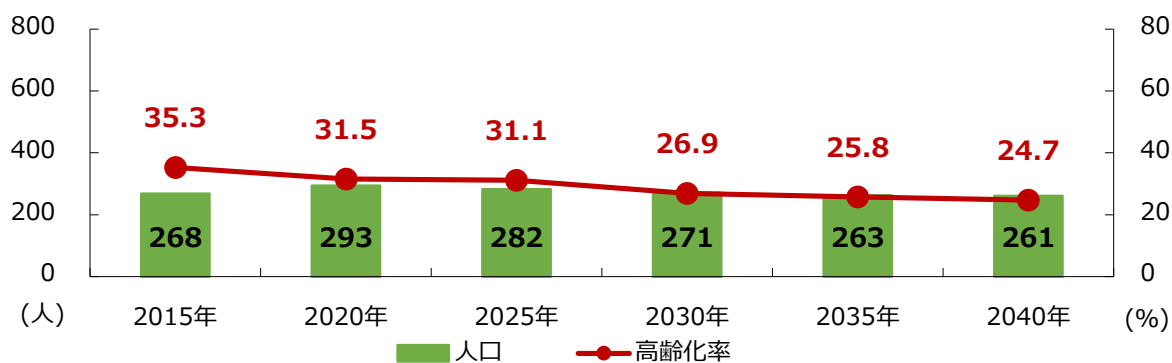
● シミュレーション 1：毎年 1 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン



● シミュレーション 2：毎年 1 組、20 歳代前半夫婦が U・I ターン

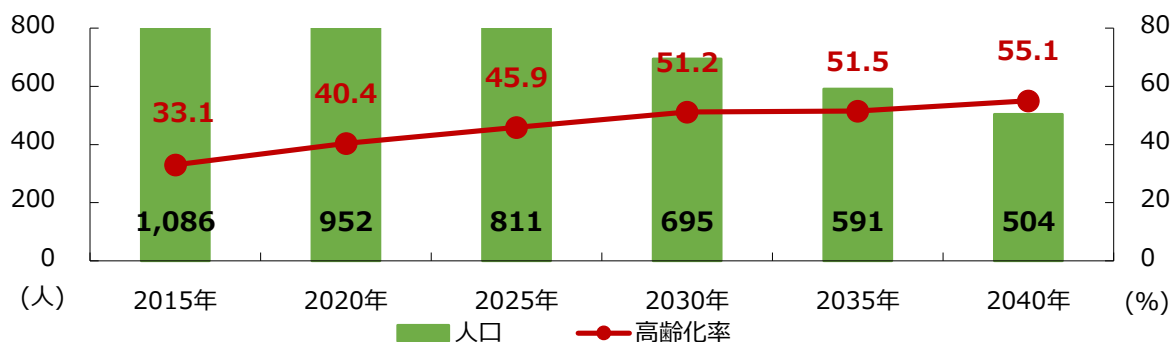


● シミュレーション 3：毎年 1 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン かつ、毎年 1 組、20 歳代前半夫婦が U・I ターン

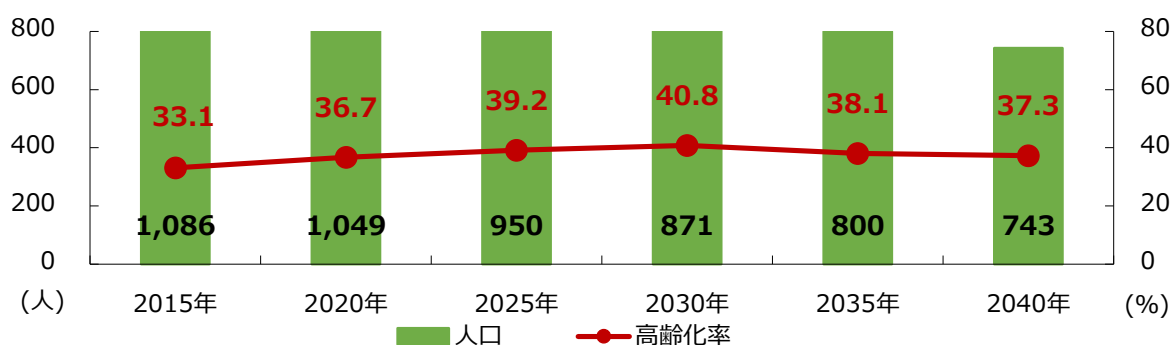


モデル地区推計（大国玉地区）

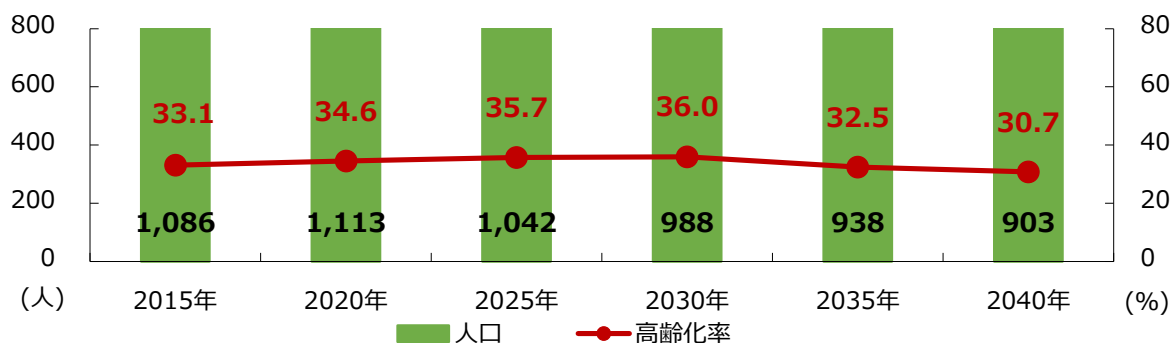
● 現行のまま



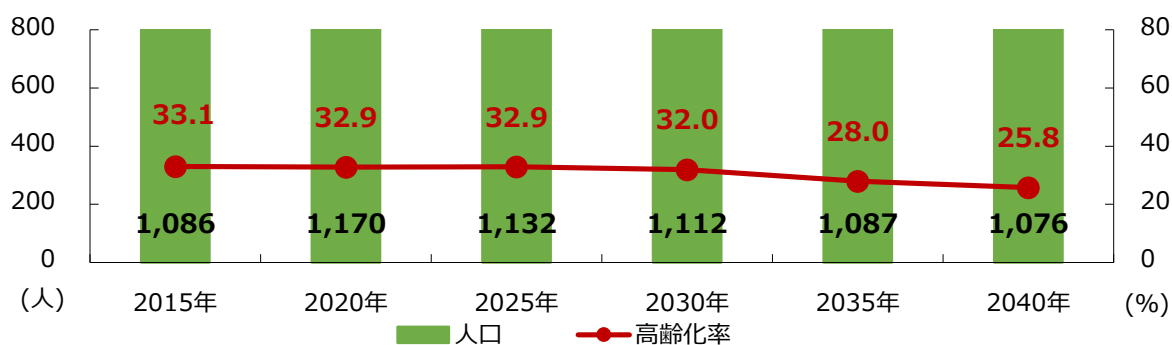
● シミュレーション 1：毎年 3 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン



● シミュレーション 2：毎年 5 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン

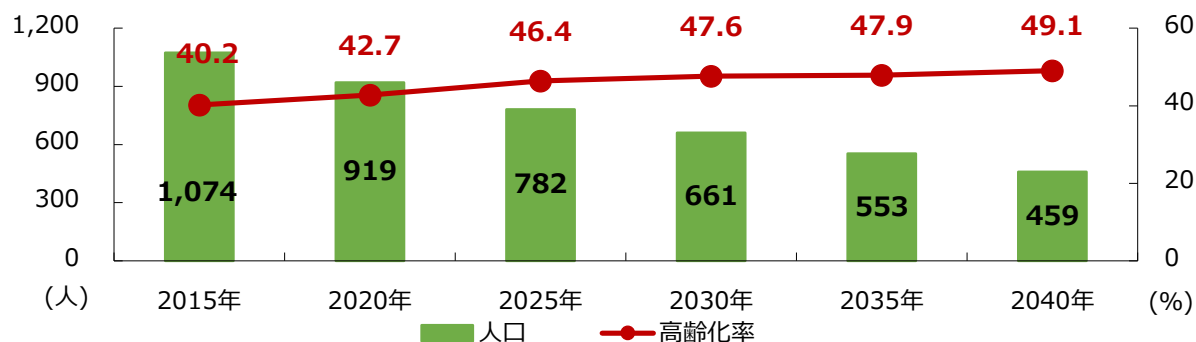


● シミュレーション 3：毎年 4 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン かつ、毎年 4 組、20 歳代前半夫婦が U・I ターン

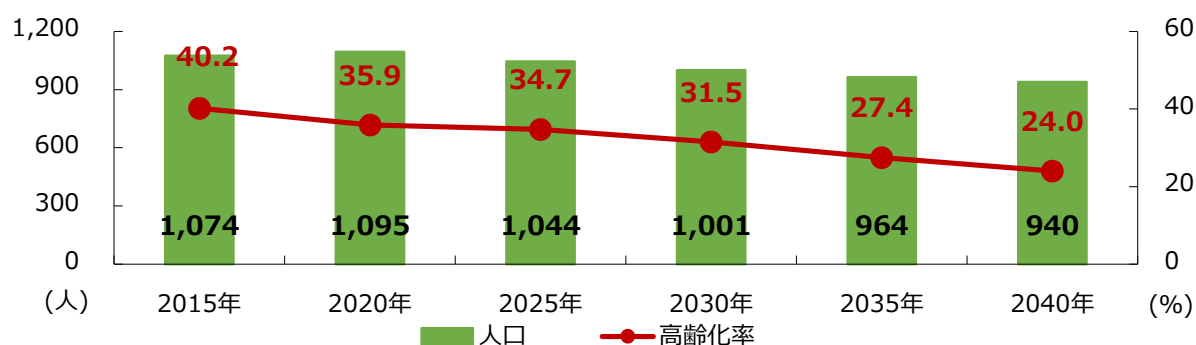


モデル地区推計（真壁町真壁地区）

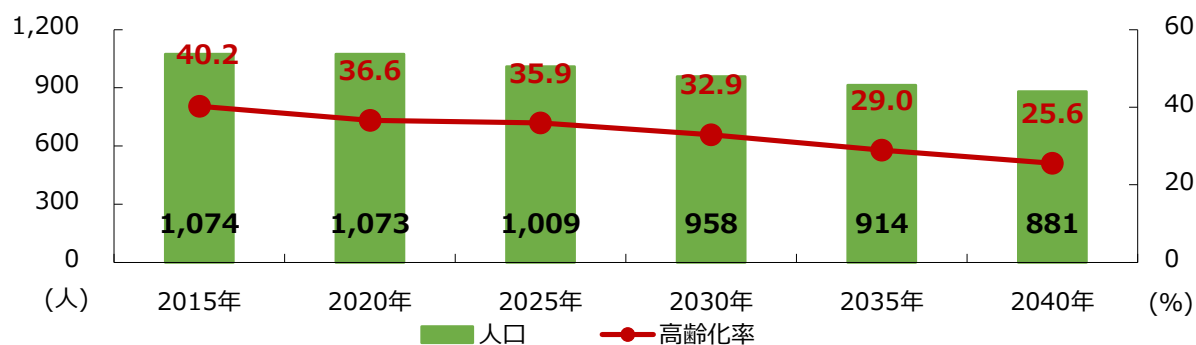
● 現行のまま



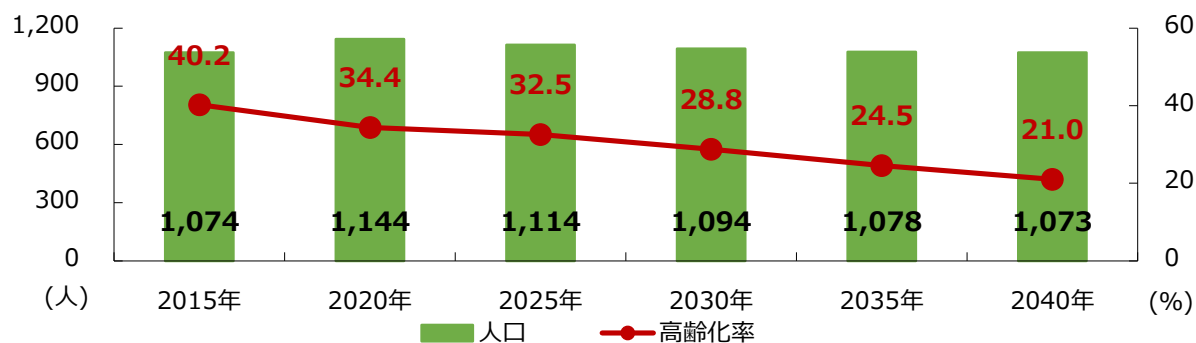
● シミュレーション 1：毎年 5 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン



● シミュレーション 2：毎年 3 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン かつ、毎年 2 組、20 歳代前半夫婦が U・I ターン



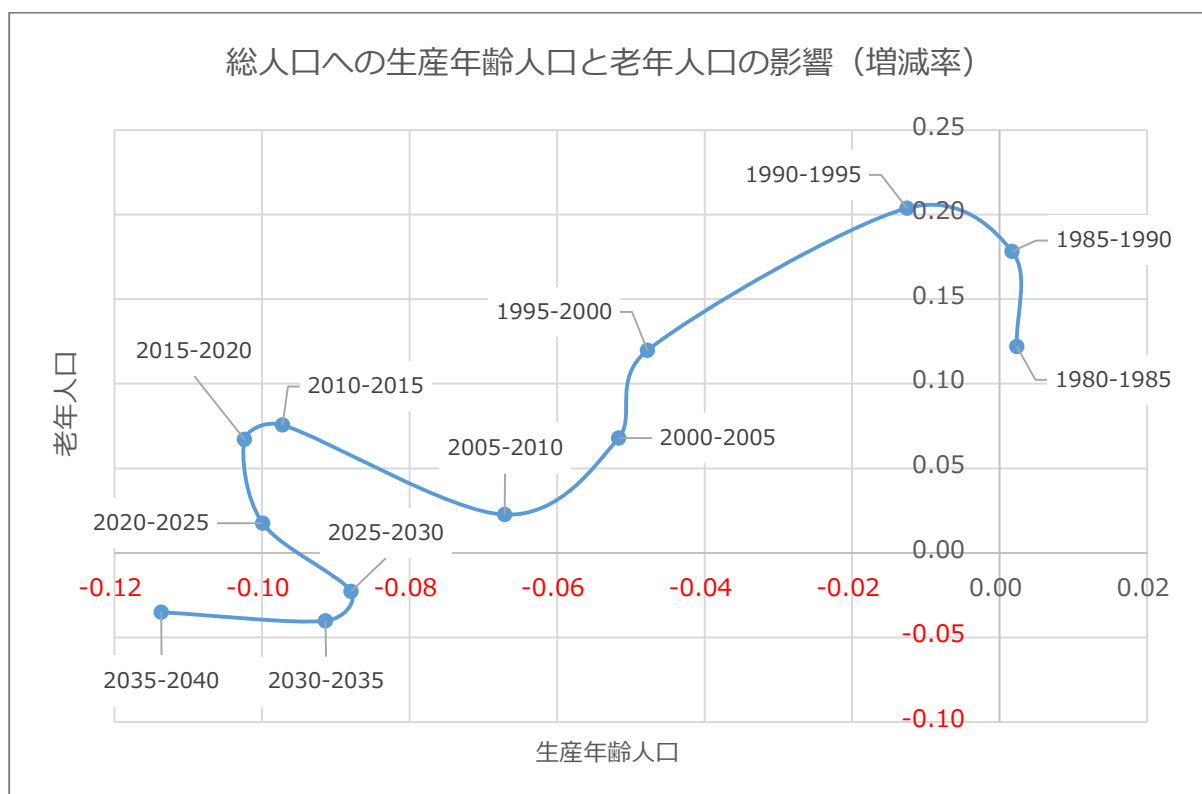
● シミュレーション 3：毎年 5 組、30 歳代前半夫婦が 4 歳以下の子供を連れて U・I ターン かつ、毎年 2 組、20 歳代前半夫婦が U・I ターン



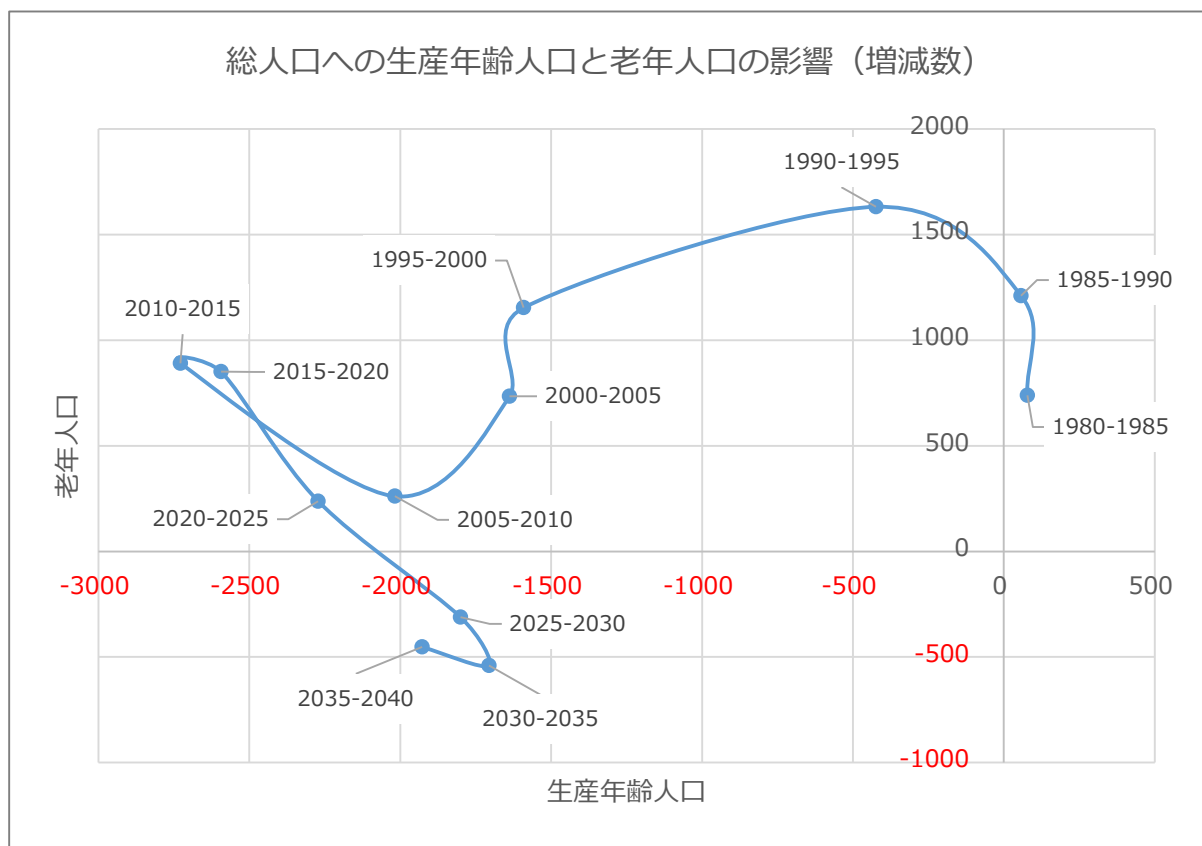
【参考3】

生産年齢人口と老年人口の増減率

○ 桜川市の総人口に対する生産年齢人口と老年人口の影響



※2010 年までは国勢調査人口、2015 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値より作成



※2010 年までは国勢調査人口、2015 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値より作成